

事業名		博物館活動の充実					評価実施者		所 属 美術自然史館 職・氏名 副館長 森 昌之			
主要事業の概要	開始年度	根拠法令等 博物館法、文化芸術振興基本法、科学技術基本法ほか					特定財源					
	実施方法	☒ 直接 ☐ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担金 ☐ その他〔 〕										
	目 的	芸術文化と創造活動、そして地球と生命を学ぶ拠点である「美術自然史館」、こどもの科学する心を育む拠点である「こども科学館」、歴史的文化遺産保存・研究の拠点である「郷土館」、人と自然をつなぐ拠点「森のかかく活動センター」を活性化することで、新たな経済的・社会的価値を創出し、「創造文化のまち」の実現と教育・文化力の向上を図る。										
	事業内容	博物館の使命・役割を果たし、個性ある地域文化を創造するため、郷土ゆかりの3作家などの作品・資料収集及び調査研究、空知川の化石調査・資料収集などに努め、その成果として収蔵作品を活用したコレクション展や博物館アウトリーチ事業「ちいさな・はくぶつかん」を開催したほか、人物デッサン会、各種ワークショップ、ロビーコンサートなどの普及事業、子どもたちの科学への興味・関心の裾野を広げる「わくわくサイエンス」事業に取り組んだ。また、博物館活性化の起爆剤として年間パスポートの導入(目標:215枚、のべ860人)と利用しやすい料金体系への見直しを行い、来館者増とリピーターの獲得、知名度向上と利用促進を目指した。										
事業コスト	区 分	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	特 記 事 項					
	事業費(A)			40,040	42,710	29,067	特定財源 北門負担金179千円、いきいきふるさと推進事業助成金350千円、普及事業参加料等436千円、入館料3,926千円、貸館料497千円 計 5,109千円					
	うち一般財源			34,989	37,601							
	人件費(B)			44,603	42,010	42,538						
	総コスト(A)+(B)	0	0	84,643	84,720	71,605	※単位:千円					
実績と成果	区 分		単位	H17	H18	H19	H20	H21	左記以外の20年度の実績・成果			
	事業の実績 (アウトプット)	1 入館者数(人)								・コレクション展 2回:5,014人 ・わくわくサイエンス 6回:181人 ・ちいさな博物館(出前講座) 4回:401人 ・移動郷土館 1回:600人		
		2 2館(美術館・科学館)		32,761	36,587	26,437	34,108					
		3 郷土館		1,440	1,130	1,227	1,120					
	事業の成果 (アウトカム)	1 森の科学活動センター		620	565	745	518			・年間パスポート 487枚 422,300円 (当初予算 215枚 180,000円)		
		2 計		34,821	38,282	28,405	35,746			・企画展示室稼働状況 203日/開館299日 67.8%		
		3 美術自然史館展示室貸館		4件	10件	8件	5件					
評価項目		点数	判定及び説明・考察									
1	適応性 有効性	10	①市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。					■ 5 □ 4 □ 3 □ 2 □ 1				
			②事業の目的に照らして効果的な手法か。					■ 5 □ 4 □ 3 □ 2 □ 1				
2	目 標 達成度	9	③目標の水準は適切か。					■ 5 □ 4 □ 3 □ 2 □ 1				
			④計画通りに目標を達成できたか。					□ 5 ■ 4 □ 3 □ 2 □ 1				
様々な事業等を通じて、市民が質の高い芸術や郷土の歴史、科学に触れたことで、博物館への興味・関心が喚起されるとともに、地域の魅力を再発見、心の豊かさを感じる機会となり、来館者のアンケート結果からも満足度が高かった。また、年間約36,000人の来館者のうち約4,500人が学校利用で、学びの場として成果を上げるとともに、市内他施設と連動し、市外からの利用者(約16,000人・46%)誘致にも貢献している。初めて導入したパスポートは487枚の販売実績で、のべ554人の再入場があり、関心の高さがうかがえた。なお、博物館の財産である三作家の作品、タキワカイギョウの認知度向上の取り組みを充実させる必要がある。												
3	経済性	5	⑤コストは縮減しているか。					■ 5 □ 4 □ 3 □ 2 □ 1				
		補助金を有効に活用し、効率的かつ効果的な企画展や普及事業等の組み立てに努めるとともに、管理経費の縮減を図りながら効率的な博物館運営を行った。										
総合評価	合計	24	ランク (A~E)	上記評価を踏まえた事業の課題								
	100点換算	96	A	地域固有の課題に応える博物館として、使命・役割を果たし、知名度向上と入館者増を図るため、市民・団体等との連携を推進するとともに、魅力ある事業を企画し、アプローチ方法やPRを含め、認知度を上げるための様々な手法を検討する必要がある。 ☒ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☒ 質的向上 ☒ スピードアップ ☐ 検証 ☐ 現状維持								

【評価点数】

5 : 十分できている 4 : できている 3 : ほぼできている 2 : あまりできていない 1 : できていない

【総合評価ランク】

A : 86点以上 優れた取組が多く、十分に成果が上がっている
 B : 71~85点 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている
 C : 56~70点 一定の成果は上がっているが課題もあり、更なる取組によって上位を目指す必要がある
 D : 41~55点 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多く、更なる改善が必要である
 E : 40点以下 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要である

◎外部評価委員の評価・意見等

評価項目		点数	判 定						点検・評価に関するコメント					
1	適応性 有効性	10	①	■	5	□	4	□	3	□	2	□	1	・博物館で行われていることが、市民にはそんなことがあるの？程度しか伝わってこない。子どもを持つ親だと学校を通じて知ることができるが、どこでどのような周知が行われているのかわからない。数字に表れているので努力は理解はするが、市の広報だけでなくもっと多くの人への周知をお願いしたい。
			②	■	5	□	4	□	3	□	2	□	1	
2	目 標 達成度	9	③	■	5	□	4	□	3	□	2	□	1	・学校、子どもたちの利用が多く、前向きに評価する。子どもの利用が親の利用にもつながるだろう。学校がもっと主体的に利用してもらえる取り組みをお願いしたい。
			④	□	5	■	4	□	3	□	2	□	1	
3	経済性	5	⑤	■	5	□	4	□	3	□	2	□	1	・市外からの利用者が視野に入れて施設を活性化させてほしい。
			合計	24		100点		96		ランク	A			
				/25		換算		/100						